

いまひえけじゅうたくおもや 新比恵家住宅主屋

1. 建物の概要

所在地	益田市小浜町
所有者	個人
建築年代	大正 9 (1920) 年頃建築／ 昭和 52 (1977) 年改修
登録年	令和 4 (2022) 年
構造等	木造 2 階建・瓦葺、建築面積 253 m ²



【新比恵家住宅主屋】

2. 沿革

かつて漁業で栄えた小浜町の石州瓦の家並みが細い道に沿って伸びる印象的な景観を残す地区に所在する。

明治 25 年に町が火災にあったのち、大正 8 年から着工して完成したのがこの建築。

新比恵家は明治時代の終わりに小野村長、大正時代に美濃郡議会議員を輩出した地域の中心的存在の家であった。

3. 建物の特徴

日本海を背に立つ住宅で、主屋は 2 階部分の屋根が低いつし 2 階建てで、^{いりもや}入母屋造り平入の大型の民家である。

外壁は 2 階から軒裏まで塗り込めた漆喰仕上げとなっており、^{しっくい}屋根に葺かれた石州瓦とともに鮮やかな外観を呈している。

平面構成は、南東に^{しきだい}玄関と式台玄関を設け、西列を座敷とする重厚なつくりとなっている。

主屋の当時の記録『^{ふしんざつようおぼえがき}普請雑用覚書』が新比恵家には残されており、その中には契約から材料の調達、職人の氏名や雇用日なども書き込まれ、建設の経緯が分かる資料が伝わっている。

この普請帳に書かれた木材に^{つがざい}椀材が記録されているが、椀普請はこの地でも高級な住宅の代名詞となっている。

屋根裏の端部は、海沿いにあるためか、土がしっかりと内側からも塗り固められ、外からの風が入らないようなつくりとなっている。



【玄関（右）と式台玄関（左）】